

東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

第17回市民体育大会始まる

秋季市民体育大会の硬式テニスが予定通り9月15日取扱の日に、男子シングルス(A)で幕をあけました。

幸いに雨にあわず今の所順調に行われています。今年下参加も多く男子シングルス(A)が98名、男子ダブルス(B)が40名、同ダブルス16、実に97組となりました。

今季はD外が大変少なくて、男子シングルス(A)と、ダブルスは一日で終らず二日にわたって行われています。現在男子シングルス(A)は、15日と23日、男子シングルス(B)は、23日に終り、男子ダブルスは21日に3回戦が行われ、4回以後は9月28日に行われる予定です。

現在の結果

男子シングルス(A)
優勝 中村(日産袋)
準優勝 小渕(一般)
三位 伊藤(東住)
〃 松本(緑ヶ丘病院)

男子シングルス(B)
優勝 疎辺(一般)
準優勝 江藤(市民テ)
三位 矢野(グリーン)
〃 杉田(日産袋)

市民テニスクラブからも多款参加し、汗を流して一生懸命最後迄がんばりました。

男子シングルス(A)は残念ながら入賞することは出来ませんでしたが、(今回武谷氏は、講習会出席の為23日出場出来ませんでした)。しかし吉永、松井氏をはじめ諸沢、本侯氏も、善戦けん奮して次回は、大いに期待したいものですね。

さて、今回将レフオベキは、男子シングルス(B)で惜しくも優勝したのがしたもののみこと準優勝した高校生の江藤君(東住)です。一回戦、二回戦と進むにつれて気合が入り決勝は、1-6、6-7と、2-0で付けるか新人ながら立派に最後迄がんばり抜きました。

来年はAクラスでがんばることでしょう、彼の将来が楽しみです。

総評は、全日程終了後にさせていたゞき頂すが、またこの後、女子シングルス、社員等あります方が参加される方はがんばって下さい。参加されたい方も、是非応援してあげて下さい

(米田 競記)

軽井沢の太田山荘へテニス訪問

8月17日(木)柳会長より太田先生の東住山荘への招待状が市民テに来たが、急の事だけれど8月9日～10の土日で、やりくりのつく人達でまず訪問したい、都合上、と連絡があり行かれそうな方向に通達、最終的メンバーハ急所事もあって、柳会長、阿辻川、儀町、武谷、藤岡の諸氏に小生の6名と云う事でした。招待状の末尾に太田先生の車輸送を是非にとの伝言もあり、又近距離と云う事もあり、儀町、藤岡両氏の車を利用させていただく。

8月9日朝5時30分、例により東住給水塔前出発、コースト新潟より関越高速に入り藤岡ICで下り、途中横川の

発行責任者 柳 利夫

住所 東村山市萩山町5-6-26-301
Tel. 0423-92-8808

編集者 川村 英明

釜めし屋より山荘へ連絡、土産に釜めしの出前を受け、軽井沢へ急ぐ、途中大きく迂回すると云う誤算を生じ、予方には黒難に山荘へ到着。先生及び2人の女性に迎えられる、縁と静けさの中に先生手造りの木造展望台が裏庭の谷を見下している。同じく手製のベンチ、テーブルで、冷いビールの乾杯、いやーそのうまかった事!! 当日は急な事由、コートの用意が出来ず、しかし先生の先導にて万座高原、鬼押出と、あいにくの霧の中ドライブ、雲の上を行く様、車内はなれ化洗われる時間をすごす。帰りつくと奥様と友人の夫人により同呂が用意されていた。この月呂がまた、旅しかった。話には良く聞いてか、入るの15台めでの五行門日居である、各自入浴が終ると、夜の部バーベキューパーティの始まりである。いつもの柳跡も出て、かなり遅くまで語り且つ、唄い楽しい時間が流れた。

8月10日早朝、冷気に目をさます、谷間のわき水にて洗顔、たたきにコートへ、コートはオールラウンドと、云う事なし、唐松、白樺、軽井沢、あこがれの避暑地でテニスが出来ると、阿辻川氏他感激、武谷氏の指導で約2時間の練習、帰りざわにコートに沢松和子ファミリー登場、合同練習に親睦試合にと? (出来たら良かったと一同)、またまた大感激、太田先生にお願いして、記念写真に入っていると、山荘に帰り朝食朝食、御夫人方の好意により薪でたいたい御飯で米のうまさを再認識する。2日間の予定も終り太田先生、御丈人方に見送られ帰路につく、短い日程でしたが、この度の軽井沢山荘の思い出はいろいろ人の好意が身にしみた旅として、いつまでも心に残るでしょう。柳、阿辻川両氏が、太田先生を気付い、太田先生も柳会長の病後を弟り気に掛ける……

いつも太田先生御夫婦の健康を祈り又の機会を得て山荘へ市民テ諸氏と共に伺いました。

尚、10月頃は紅葉がみごとに云う事です。

(東住クラブ) 杉山 邦夫

私とテニス <NO 35>

本町クラブ 高橋 達子

何事にも、すぐカーッと夢中になる私も、今迄に、これ程迄に打ち込み好きになつた趣味やスポーツは、種々やつて来ましたが、ありませんでした。テニスの何が私を引付けて離さないのか……。

小さい時から、飛んだり跳ねたりの好きだった私は軟式テニスをしていて父や兄のラケットが身边に転がっていたので、見称見真似で小学校上級生か中学の始め頃ラケットを手にしました。練習をしたように思うのですが上達せず面白味などトントン解らず(今思うにコチラらしいコチラ居なかつた為?)いつの間にやらラケットとの縁は切れていきました。長いブランクの後で、就取した先で、また目に飛び込んだのは、青い空の下の赤いアンツィーカーコートでした。素適な人が居たのかどうか、兎にも角にもテニス部へ。手にしたラケットは丸くて重く(一番軽い品でしたが)軟式しか知らなかった私には、目新しくボーンと弾む球

音と共に、心も弾み次第に椅子になりましたが……。実際に出来たの下僕かでした。結婚後はどう向進えたか動くことは歩くことのみという主人の関係や、コートとアレイする人に恵まれず、スマラケットとは疎遠な関係になっていました。運命の女神が微笑んだのは53年夏当地へ越して来てまでは市内偵察と、我愛しの自家用ニ輪車で走り廻って見つけたコートからでした。早速入会出来る会を、友を求め市役所へ足を運びましたが、思うにまかせた結果、我家の工事担当者の方からの口添えで、めでたく当年1月から市民手に入部させて戴きました。入ったとき見えてビックリ。上手な方々がワンサカいらして、コーチの方が球を一生懸命出して下さるやう教えて下さる。最初は小さく(自分で)なっていましたが、これで刺激されたいはあります。ジワジワと夢中になる虫が頭に登り、以後だんだん厚かましくなり、運動神経のことや、生きてきた年輪も一度テケットを握ると、人並でスカ代位に錯角する。無理のない美しいフォームや早い打球、コースをねらった試合遊び等を目にすると、頑張れば私にも出来るのではないかと欲張る。目標にする方々には事欠かない、これらの条件に幼少されて土、日の練習ではもどかしく、時間の許す限りをテニスに費やした一年でした。最初はコーチの方の言葉ではありませんが本当に“どうなるやら”でしたが、何とか試合をしても楽しめるようになりました。まだまだ一つ教えてもらおうと、前の注意はフッと消え、又注意受けく“アッレました”的繰返しだ方が、今はティクバックを小さく早く、打点を前にフォロースルーを大きくとロの中でフボやいています。出来なかつたことが練習に依り少しづつ出来る、それをステップに次の技術を。この成れとげて行く満足感とやったという充実感。これこそテニスに夢中になった一番の要因でしょう。もう一つは良きライバルであると共に友達に恵まれた(今では足元にも及ばないか)ことでしょう。これは大きな心の張りを持続させてくれます。今ではテニスは私にとって、活力であり、生活の油のようになります。

自己紹介コーナー

1. 氏名 井戸クラブ 男・女 生年月日 (又は誕生日)
2. 出身地(その特徴) 3. 家族構成 4. テニス歴
5. 他のスポーツ(現在又は過去やった) 6. 趣味
7. 自分の特徴 8. 今年の目標または期待

NO.15

1. 山川理美(さんかわ りみ)、美住クラブ、女、昭和35年9月7日 明星大学人文学部心理教育学科教育学専修2年次
2. 東京(田無)谷戸小のすぐ隣り保谷高まで自転車で7分 東京山へは高1のクリスマスの日に引越しして来ました
3. 父、母、弟(高2)、妹(中1) 4. 車式 6年
5. スキー 大泳 6ピアノをひくこと、スポーツすること マイペースで努力し続ける(目標?) 8. 一生懸命練習して、シングルスの試合に出でみたい(一度もしたことがないんです……)

コート取りの当番	本町A 10月に11月分を よろしく
	東住B 11月に12月分を 恩多A 12月に1月分を お願いします。

技術シリーズ NO1 (その2) 武谷 千枝子

d) 余裕のあるボール下攻撃を。

自分で制御出来るボール下積極的に攻撃してみる。もし失敗したら前述した条件、ボールの負、高さ(高いボールでも轟してと、それはいけない)精神的にも余裕があったかどうか反省してみよう。

3. フォーメーション

雁行の場合の基本的な考え方として、グブルスは二人で力を合わせて戦うもので、後の人のシングルスではない。後はあくまでもボールを繋ぎ、チャンスを作り、前が決めるものである。上手なチームにいれば下る程、後からストロークで決めるなどという事は不可能にならなくなる。

a) 後の守り方

a' 苦しいボールはとりあえず返す。(とりあえずの精神)、免に角、なりふりかまわず走って拾いネットを越えさせ、ボールを繋ぎ、相手にミスさせるチャンスをもう一回与える。

a" ケし余裕のある時 前にとられないボールを返す = クロスに = ロブでもクロスに返す。

a" 更に充分制御出来るボールである時につて、コースを考えたり、パッティングしたり、深く押したボールを打つなどしてチャンスを作る。前回の頭を越すロブはこの時に初めて使う。余裕のないボールや精神状態が前回の頭を越すとすると、せむチャンスが上ってしまい、次には味方の前回は、けがをしないように逃げ出すだけれどならない。後で深いボールを打つとチャンスが上ってくる、ゆめゆめ後で決めてやろうなどと思つてはいけない。もっと前回を信用して下さい。

b) ボレーヤーの攻め方

雁行の場合、大活躍出来、ネットをとることが出来るのが、ボレーヤーで、ネットについくる装飾品ではないのです。もっと皆さん分かりましょう。ではどうやって防ぐか。

前後、左右に動く — ボールと平行移動を —

b' 前につめるとき、相手のコートにボールがある時以下ネットにつき、相手の打ってくるボールに備える。前につく意味 ① コートに空を作らない。以下の打つたボールが短かく相手にチャンスを与えてしまった時にサイドを守る。② チャンスボールを決める。自分のペアの打ったボールが深く、チャンスがありそうな時は、さあこい、決めてやるぞと思って構える。

b" 自分のコートにボールがある時、少し後に下って自分のペアの打つたボールが、相手前回につかまってしまったボールをフォローする(図1)

b" 左右に動く、ボールがサイドに寄つたら、体をサイドに寄せ、充分パッキングを警戒する。反対側のサイドに行つた時はやへセンターまで出る(図2)(図3)

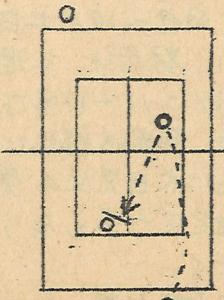


図1

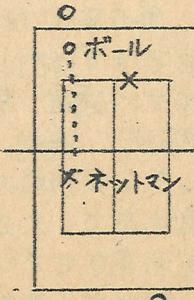


図2

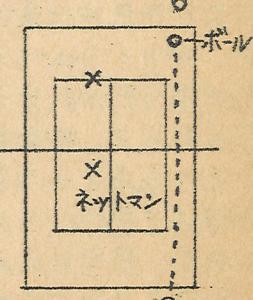


図3